

Ⅲ. 分担研究報告 2

厚生労働行政推進調査事業費補助金

医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業

サリドマイド胎芽症患者の健康、生活実態の把握及び支援基盤の構築に関する研究

研究分担者 宮本心一（独）国立病院機構京都医療センター健診センター

§ サリドマイド胎芽症患者の健康、生活実態の諸問題に関する研究

研究分担者 宮本 心一（独）国立病院機構京都医療センター健診センターセンター長

研究協力者 島 伸子 同上

研究協力者 難波 綾 同上

研究協力者 前川 高天 同上

研究要旨

2021年度の健診について報告する。本年度もコロナ禍の影響で、健診控えの傾向は続いた。受診者数は3名で、男性1名(59才)、女性2名(59才と60才)であり、全員が2回目の受診(前回は2013年度、2014年度、2016年度の受診)であった。

研究結果

1. 内視鏡検査を実施した3名全員が経鼻内視鏡を希望され実施した。検査に伴う偶発症は認めなかった。3名ともピロリ菌の除菌歴はなく、胃がんリスク層別化検査でA群であり、内視鏡所見上、胃粘膜萎縮を認めないことより、ピロリ菌未感染と考えられた。胃がんをはじめとする悪性腫瘍は認めなかった。1名に食道胃接合部ポリープを認め、原因として食道胃逆流が疑われたため、PPI内服後の再検・精査を勧めた。
2. 腹部超音波検査では3名中2名に脂肪肝を認めた。無胆嚢症や腫瘍性病変は認めなかった。
3. 大腸がん検診としての便潜血検査は3名とも陰性であった。
4. 生活習慣病として、1名(59才M)は前回健診時に指摘した高血圧、脂質異常症、高尿酸血症に対し治療が開始されており、概ね、コントロール良好であった。また、前回FBS110mg/dl、HbA1c 6.3%と軽度上昇あり、今回もFBS124mg/dl、HbA1c 6.3%と異常を認め、引き続き生活習慣の改善、経過観察が必要であった。1名(59才F)は前回に比べ体重が4.7kg増加しており、BMIも23.1から25.3と上昇していた。糖尿病にて、メトホルミン内服中であったが、FBS142mg/dl、HbA1c 7.4%とコントロール不良であり、改善が必要と考えられた。1名(60才F)はBMI20.6と正常範囲内で腹部超音波検査上、脂肪肝も認めないが、前回

に比べ脂質異常が悪化傾向にあり (LDL-C mg/dl→189 mg/dl、LDL/HDL1.5→1.6) 生活習慣の改善と定期的な経過観察が必要と考えられた。

考察

これまでも報告してきたようにサリドマイド患者には、① 脂質異常症の頻度が高く、主に脂肪肝による肝機能障害がみられ

124 mg/dl →146 mg/dl、non-HDL-C 165 ること。② 耐糖能障害や慢性腎臓病を呈する症例があること。③ 女性だけでなく、男性にも骨粗鬆症の症例があること。④ サリドマイド (誘導体) 自体が甲状腺機能異常や内分泌・代謝異常を引き起こすことなどが明らかになっており、健康管理上は運動制限からくる肥満症に留意する必要があることが再認識された。